

新武乃傳來記

卷三

13
3270
3



3270
3



好文堂

新武道傳來記

卷三

諸國歎討

目錄

才一 鴨川々三途乃浮波

才二 中姓そらぬ酒酔の謀討

そ代れ刀の鞘ぬせりかゝる盗人



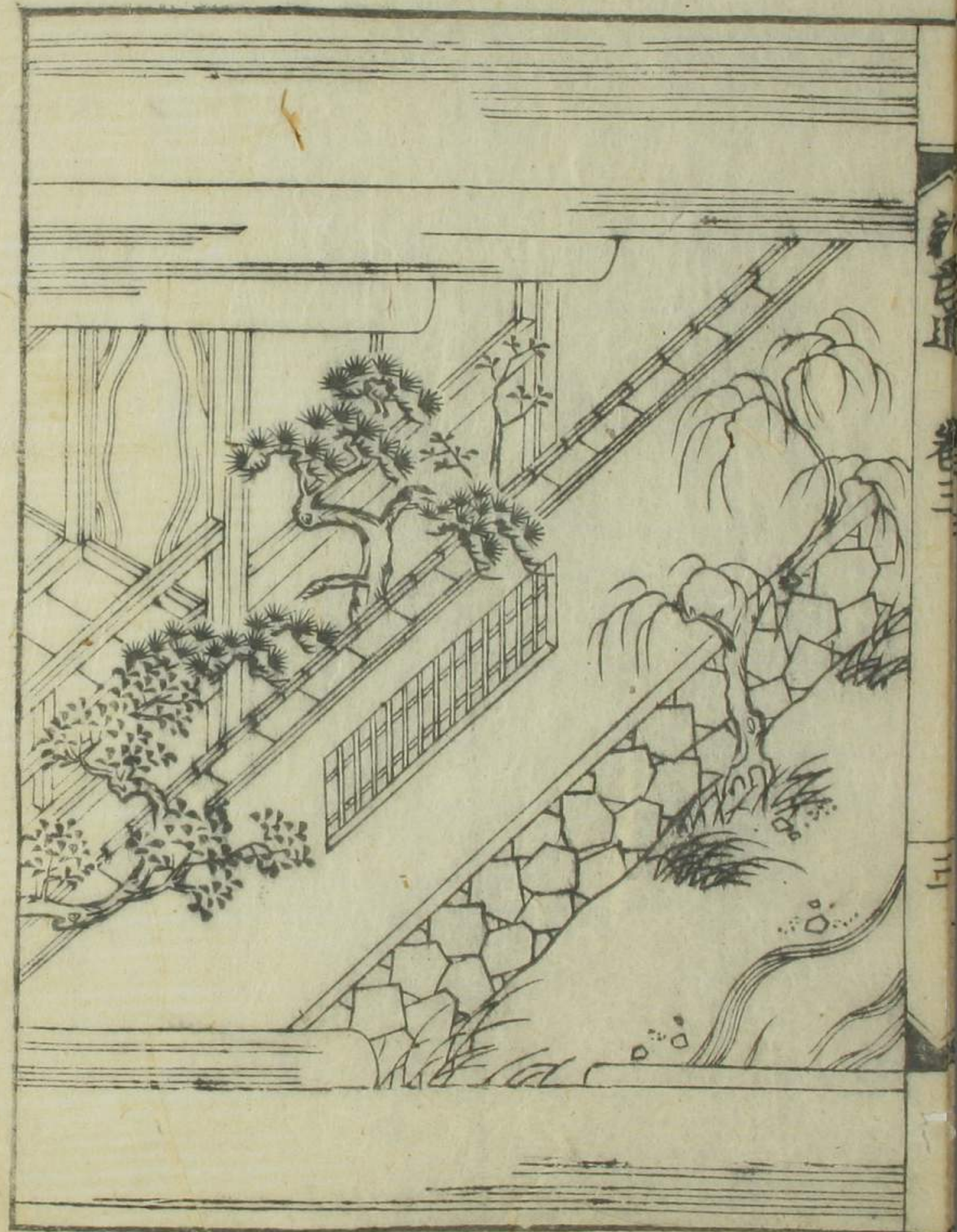
才三

少年少年の花を分別分別の枝枝

若城若城の夕夕の西西風風

鴨川ハ三途の字鴨川ハ三途の字

とどみとみ洗川洗川のわさりに何のちまといわよ
そのわりは藤原藤原の今今年年十六十六の盛盛の夜
らけゆもわさけぬと云親親王王の宮宮よりけり
われは洗川洗川のわさりに何のちまといわよ
けがとまじりのわさりに何のちまといわよ
あーれ里里よりわさりに何のちまといわよ
らじりてわさりに何のちまといわよ
うしひらきわさりに何のちまといわよ
が恩恩とわさりに何のちまといわよ
賀賀の精精よりわさりに何のちまといわよ



好む好むいふ年の春風盛りのうき世をせむめく
し。ゆきより家申とぶわりののふむらゝを
ゆきびらもさるれどもさうに思合とらるる草ハ
不膏がらぬんもさか後別して他家のわらり小姓を
百おへらるるとんらうの由とまよふく世世のこれ
と用るまをせむくあまふまやうをなるとま
をひらり公家の西の法所あくもたむらうの飛
猫のよまらうとわぐしんをねがふとぬら
さこめく公助がぬらの掃たり。中にあがる淵の
あうい精のそのらまよふ。さう十七のうらひとま
せぬの上総の人あく。あわい山谷は九事。伏く加作の

おぼたれとほほはあつた付らうび平の地下に
四層おぼくそのおぼくぬまよふとくもおぼくぬ
まこらんまどうまいかなまよふてせ別えおま
んまよふまら。大守の公らうましたたの
とあけらぬまなればらうとてそれとほほの
くこのらうまよふお人のお世及のうらまよふ
ものらうの具とらうらう小倉徒めては殿のらう
アウ。しんこれ出願れわらうらうの海同とら
みや。おち五而る下らうま井と同段あわさ
なり半分のせぬは武州利川の先りおまよふと
飛れらうあぬらのふなれとまそのしめれぬ

三田寺町不動院とては天台宗の寺にあらざるは
 とお勤て十四五まで舟よりしつ玉川の水道りきり
 むとあつひおとどそれいふみとをりりし律はれ
 ありこれ我んそそはあまきと名のもび
 とゆいふが今まこきととわきこりわたり
 和とあぬゆいそのおとらたびりして私欲のほ
 かこみ霧ふさがり。酔いぬみ魚慕して殺後と忘
 とはわりるぬなり。酔いぬ一人あまこりひのまを
 ぶれ小性な。つらま口説くぬはなをれともはあ此の人
 が。これ新しきものもあまひ。又この胸はあま
 川このが年よんはく。とあく。にひいようは。女

もしとて。で。月。あ。る。ら。は。わ。人。は
 とういひ。酔いぬ。和。対。して。ぬ。ま。そ。の。は。一
 不。我。著。ハ。敷。板。の。海。月。が。林。と。あ。つ。作。付。ら。る。者。は
 次。り。ま。る。成。その。も。れ。や。ま。ま。海。新。し。く。は。あ
 て。い。が。あ。ま。を。こ。り。は。ま。り。ま。は。わ。ま。あ。つ。て。ひ。分
 あり。こ。り。は。い。は。り。は。り。後。り。の。中。性。な。ら。その。あ。わ。れ
 よ。う。い。ぬ。と。ぬ。お。ひ。り。や。こ。り。わ。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま
 と。い。ぬ。敷。の。出。頭。と。ゆ。ひ。ち。こ。り。新。中。ゆ。あ。つ。く
 侍。の。儀。わ。る。衣。通。の。ひ。こ。り。ま。が。あ。つ。て。ぬ。り。ぬ。が。あ。り
 ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま
 不。い。こ。り。難。え。ら。る。け。い。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま



